0.25	0.042	0.25	0.870	0.25	0.594	0.25	0.133		
0.30	0.058	0.30	0.842	0.30	0.544	0.30	0.171		
0.35	0.076	0.35	0.810	0.35	0.494	0.35	0.211		
0.40	0.096	0.40	0.775	0.40	0.444	0.40	0.253		
0.45	0.119	0.45	0.734	0.45	0.394	0.45	0.297		
0.50	0.143	0.50	0.687	0.50	0.344	0.50	0.344		
0.55	0.171	0.55	0.630	0.55	0.297	0.55	0.394		
0.60	0.203	0.60	0.563	0.60	0.253	0.60	0.444		
0.65	0.242	0.65	0.489	0.65	0.211	0.65	0.494		
0.70	0.289	0.70	0.413	0.70	0.171	0.70	0.544		
0.75	0.344	0.75	0.333	0.75	0.133	0.75	0.594		
0.80	0.409	0.80	0.252	0.80	0.097	0.80	0.644		
0.85	0.482	0.85	0.170	0.85	0.063	0.85	0.694		
0.90	0.565	0.90	0.089	0.90	0.032	0.90	0.744		
0.95	0.658	0.95	0.026	0.95	0.009	0.95	0.794		
1.00	0.761	1.00	0.000	1.00	0.000	1.00	0.844		

PBzは、次のとおり計算する。

$\frac{z}{DS}$が○・一以下の場合には、

$PBZ=(14.5-67z/DS)(z/DS)$

$\frac{z}{DS}$が○・一を超える場合には、

$PBZ=0.78+1.1(z/DS-0.1)$

PBzは、一を超えてはならない。

10　この第二十三規則については、各貨物タンクからの平均的な油の流出量の提示による合計した簡易な確率の手法を使用する。隔壁又は甲板において階段部又は屈折部の発生によつて特徴付けられる一定の設計及び傾斜した障壁又は顕著な船体のわん曲については、一層厳密な計算が適当とされる。このような場合においては、次の計算方法の一を適用することができる。

.1　8及び9に規定する可能性は、仮定された副区画室の適用により、一層正確に計算することができる。

.2　8及び9に規定する可能性は、第十九規則5に規定する指針に含まれる密度の機能の可能性の直接的な適用によつて計算することができる。

.3　油の流出性能は、第十九規則5に規定する指針に記載される方法に従つて評価することができる。

11　管系の配置に関する次の規則を適用する。

.1　船側から○・三○BS未満又は船底から○・三○Ds未満の位置にある貨物タンクを縦通する管系の管は、貨物タンクに開口を有する弁又は同等の閉鎖装置を備える。

.2　事故の場合において、緊急の急速貨物移動装置又は油の流出を軽減するための他の装置の使用により、油の流出の減少の見込みについては、当該装置の効果及び安全上の側面が国際海事機関によつて承認された後においてのみ、考慮することができる。承認のための提出は、第十九規則5に規定する指針に基づいて行う。

第二十四規則　損傷範囲の仮定

1　油タンカーからの油の仮想流出量の第二十五規則及び第二十六規則による計算上、船側及び船底における損傷範囲を表す平行六面体の縦方向、横方向及び垂直方向の寸法は、次のとおり仮定する。船底損傷については、油タンカーの部位に応じ用いる二の種類の寸法を仮定する。

.1　船側損傷

.1　縦方向範囲（lc）　$\frac{1}{3}L^{\frac{2}{3}}$メートル又は十四・五メートルのいずれか小さい方の長さ

.2　横方向範囲（tc）(指定された夏期フリーボードに対応する水平面において中心線に対し直角に船側から内方に測る。)　B/5メートル又は十一・五メートルのいずれか小さい方の長さ

.3　垂直方向範囲（vc）　限定なしに基線から上方

.2　船底損傷

縦方向範囲（ls）　L/10メートル　船首垂線から○・三Lメートルまでの部分

L/10メートル又は五メートルのいずれか小さい方の長さ　船舶のその他の部分

.2　横方向範囲（ts）　B/6メートル又は十メートルのいずれか小さい方の長さ。ただし、五メートル以上

.3　基線からの垂直方向範囲（Vs）　B/15メートル又は六メートルのいずれか小さい方の長さ

2　1で用いられている記号は、この章においては、1に規定する意味を有する。

第二十五規則　油の仮想流出量

1　船側損傷の場合の油の仮想流出量（Oc）及び船底損傷の場合の油の仮想流出量（Os）は、第二十四規則に定める範囲の損傷を船舶の長さ方向に沿つて考えられるあらゆる位置について仮定し、それぞれの損傷が破損を生じさせることとなる区画室について次の式で算定する。

.1　船側損傷については、

$Oc=\Sigma Wi+\Sigma KiCi$(1)

.2　船底損傷については、

$Os=1/3(\Sigma ZiWi+\Sigma ZiCi)$ (II)

この場合において、

Wiは、第二十四規則に定める範囲の損傷により破損が生ずることとなるウイング・タンクの容積とし、立方メートルで表す。分離バラスト・タンクのWiは、零とすることができる。

Ciは、第二十四規則に定める範囲の損傷により破損が生ずることとなるセンター・タンクの容積とし、立方メートルで表す。分離バラスト・タンクのCiは、零とすることができる。

Kiは、1−hi／vsとする。hiがvs以上である場合には、Kiは、零とする。

Ziは、1−hi／vsとする。hiがvs以上である場合には、Ziは、零とする。

biは、指定された夏期フリーボードに対応する水平面において中心線に対し直角に船側から測つたウイング・タンクの幅とし、メートルで表す。

hiは、二重底の最小高さとし、メートルで表す。二重底がない場合には、hiは、零とする。この1で用いられている記号は、この章においては、この第二十五規則で定義する意味を有する。